



かしわの

No 492 (11月号)
令和3年10月29日
調布市立柏野小学校
校長 浅野 正臣

<http://www.chofu-schools.jp/kasiwano-sho> mail:kasiwano-sho@chofu-schools.jp

「うれしい」気持ちを伝えよう

校長 浅野 正臣

緊急事態宣言の解除に加え、東京都のリバウンド防止期間も解除され11月を迎えます。学校の活動も少しずつその範囲を広げ、各学年の遠足は、公共交通機関を使用せず徒歩で実施しています。また、かしわの発表会(展示)は参観の人数を分けて実施します。

このような中、5年生が八ヶ岳移動教室(10/14,15)を実施しました。天候にも恵まれ、子供たちは、感染予防対策を行いながらの活動を一生懸命に行いました。

夕食の片づけのことです。対策をとっての片づけは、教員にとっても子供たちにとっても初めてのことでした。私は、手順が多いこともあり、かなり時間がかかったなという印象をもちました。ところが、片づけの様子を見ていた食堂の方から「とてもスムーズな片づけで時間も早かったですよ」と担任に伝えられ、そのことをすぐに子供たちに伝えました。それは、『一生懸命に取り組む大切さ』と共に、『子供たちが一生懸命に取り組んだ姿を見て、認めてくれたことがうれしい』と感じたからだと思います。そして、この気持ちを子供たちに伝え、自分が感じた「うれしいという気持ち」を子供たちに広げたいと思ったのでしょう。校長としても、食堂の方の言葉は、大変ありがたく嬉しい言葉でした。さらに「柏野小の先生方は、本当にまじめで一生懸命ですね」という言葉も頂きました。とてもうれしい一言でしたが、なかなか教員に伝えるタイミングがなかったため、翌週の全校朝会で、八ヶ岳移動教室での様子とこの

嬉しかったエピソードを紹介しました。

「うれしい」という気持ちはともすると自分の中だけで消化してしまうことがあります。でも「うれしい」気持ちを周りに伝えていくことで、多くの人たちがほっとしたり、前に進んでいく力につながったりするのではないかと考えます。ご家庭でもお子様との間はもちろんのこと、大人同士でも「うれしい」という気持ちを伝える意識をもつといいのではないのでしょうか。

学校では、11月を「ほめあい月間」として、友達にしてもらった「うれしいこと」を貼り出し、広げる活動に取り組んでいきます。感染予防対策が続く中、どうしても気持ちが前に向かない時もありますが、ほめあい月間等の取り組みを通して、より多くの子供たちが「ほめられてうれしい」と感じる経験や、「うれしい気持ちをたくさんの人に伝えたい」という思いをもてるように、指導していきたいと思います。

